



新しい まちづくりの計画



室蘭市総合計画の見直しの基本ポイント

新しいまちづくりの計画

室蘭市は、平成10年に策定した「第4次室蘭市総合計画」に基づいて、白鳥大橋やものづくりの技術、豊かな自然などを生かしたまちづくりを進めてきました。今後も地域の大切な資源を生かしながら、社会の変化へ柔軟に対応するため、総合計画の基本的な取り組み(基本計画)を見直しています。市民の皆さんとともに進める住みよいまちづくりのため、「総合計画とは何か」「新しい計画の考え方」などを紹介します。

現在の総合計画 「第4次室蘭市総合計画」

掲げています。そして、この将来像を実現するために、地域の資源を生かした「5つのまちづくりの方向」を示しています。

第4次室蘭市総合計画は、白鳥大橋が開通した平成10年に作りました。白鳥大橋をまちのシンボルとして、まちの将来像に「海と科学技術のサークル都市」を

総合計画は 「まちづくりの道しるべ」

市町村の「まちづくりの道しるべ」となる計画が「総合計画」なのです。

進んでいくことが必要です。総合計画は、大きく分けて、まちの将来像と方向を示す**基本構想**と、それを実現するための取り組みを示す**基本計画**で構成されています。

市町村では、住みよいまちづくりのため、福祉・教育・都市基盤整備など、さまざまな取り組みを行なっており、それらをも一つの方向性のもとに、計画的に推

第4次室蘭市総合計画

5つのまちづくりの方向

白鳥大橋へ対応したまちづくり

- サークル都市としての土地利用
- サークル都市としてのまちづくり

港・海へ対応したまちづくり

- 港の活用
- 豊かな海・自然の活用

科学や工業技術へ 対応したまちづくり

- 工業振興と研究開発
- 科学技術の拠点づくり

安心・安全で豊かな地域社会へ 対応したまちづくり

- ゆとりや豊かさを実感できる地域社会
- 安心して暮らせる地域社会
- 快適で安全に暮らせる地域社会

地方の時代へ 対応したまちづくり

- 地域連携によるまちづくり
- 市民に開かれた市政運営



中央ふ頭に入港した飛鳥Ⅱ。天然の良港、室蘭港には、貨物船だけでなく、客船など、多くの船が出入りする。

海と科学技術のサークル都市

新しいまちづくりの計画



室蘭の歩みと総合計画

昭和30年代からの高度経済成長により、室蘭の鉄鋼業をはじめとする産業経済は大きく発展しましたが、一方で、上下水道や公園などの生活基盤整備の立ち遅れが課題となっていました。また、道路や市街地開発などが中心の「都市開発計画」はありましたが、まちづくり全般にわたっての総合的な計画はありませんでした。

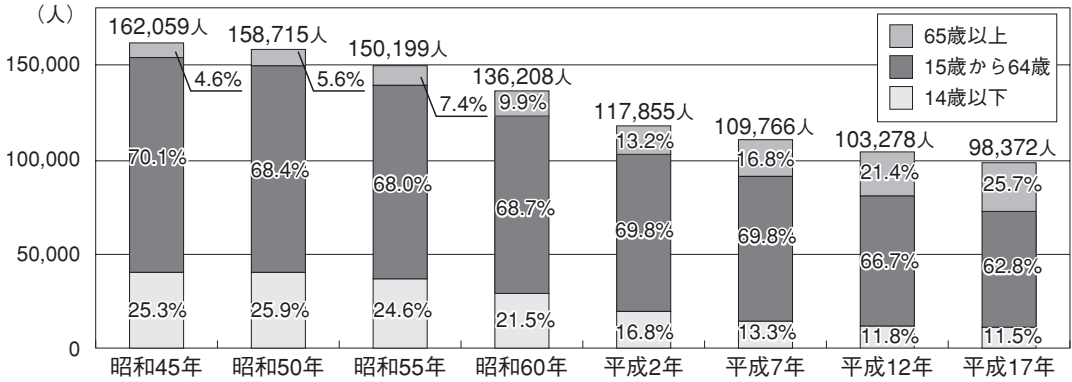
将来像を見つめ、最初の総合計画を昭和47年に策定

市民憲章が制定された昭和47年、室蘭市で最初の総合計画が作られました。その内容は、西胆振地域の連携や、資源を生かした「広域都市の実現」、新しい産業の誘致や、製品の付加価値を高めることを目指す「高次工業地域の形成」、港湾機能の強化と陸上輸送網の整備により、工業の発展を目指す「特定重要港湾の充実」、教育・文化や生活水準の向上に努め、年々増加する人口に対応する「福祉都市の実現」が、柱になっていました。

以後、その時々の時代背景や社会情勢を反映しながら、総合計画が作られてきました。

室蘭市の人口の推移（国勢調査に基づく）

※構成比は四捨五入の関係で100%にならない場合があります。



室蘭の歩みと総合計画

平成17年	平成10年	昭和63年	昭和53年	昭和47年	昭和30年代
<p>国勢調査で、58年ぶりに人口が10万人を下まわる</p> <p>パソコンやインターネット、携帯電話が普及。高度情報社会へ</p>	<p>白鳥大橋が開通</p> <p>第4次総合計画（現在の総合計画）「海と科学技術のサークル都市むろらん」（白鳥大橋をまちのシンボルに、港や工業、自然など地域資源を生かした計画へ）</p>	<p>第3次総合計画「人間性豊かな海洋・科学技術都市（ヒューマテックむろらん）」（第2次総合計画の「人が中心」の考え方を引き継ぎながら、産業と地域の活性化を目指した計画へ）</p>	<p>鉄鋼や造船など基幹産業の生産縮小や合理化、人口の激減などにより地域が衰退</p> <p>第2次総合計画「健康で豊かな、だれもが住みたくなるような生産・流通都市の建設」（人が中心のまちづくり計画へ）</p>	<p>開港100年・市制施行50年</p> <p>市民憲章を制定</p> <p>最初の総合計画</p> <p>変動為替相場制への移行、オイルショックなど社会情勢が大きく変化</p>	<p>高度経済成長。室蘭のまちも大きく発展</p>

新しいまちづくりの計画

今、室蘭のものづくり産業は、かつてないほどの活況にあります。室蘭にとって、高度なものづくり

まちの財産を生かした
わかりやすく柔軟な
まちづくりの計画へ

また、平成17年の国勢調査では、58年ぶりに人口が10万人を割り、高齢化率は25・7%と、4人に1人が高齢者という状況でした。今後も人口減少と高齢化が進むことが予想され、生活スタイルの変化や、人口の減少・超高齢社会の到来など、新たな変化や課題に対応できるまちづくりが求められます。

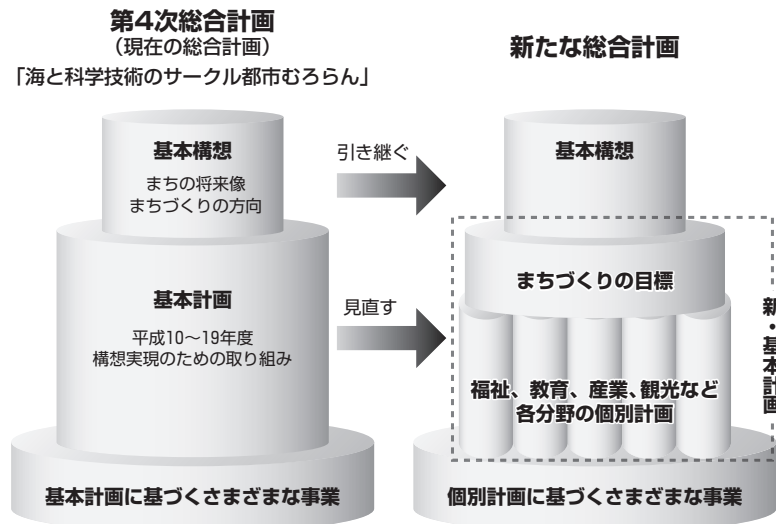
現在の総合計画が作られてから10年がたとうとしています。インターネットや携帯電話の飛躍的な普及により、生活スタイルも大きく変わりました。

社会の変化と今後の課題

新しいまちづくり計画の策定

第4次室蘭市総合計画の将来像とまちづくりの方向を引き継ぎ、社会変化へ柔軟に対応できるまちづくり計画に、平成20年3月の策定を目指して、見直します。

「何をします」から「こんなまちにしよう」の計画へ



技術や港、地球岬やイタンキ浜をはじめとする豊かな自然、そしてマチのシンボル「白鳥大橋」は、かけがえのない財産です。これまで培われ、受け継がれてきたまちの財産を生かし、活力と魅力あるまちづくりを進めるため、第4次総合計画の将来像とまちづくりの方向（基本構想）を引き継ぎながら、変化に柔軟に対応できるまちづくり計画を目指し、構想実現の基本的な取り組み（基本計画）を見直すこととしました。

総合計画の見直しのポイント

取り組み中心から目標中心

これまでの計画は、主に行政の取り組みが中心の内容となっていました。

新しい計画では、10年後に向けたまちづくりの目標を作り、市の事業や、地域のさまざまな活動を通じながら、目標の達成を目指していきます。また、目標の達成が実感できるように、分かりやすい指標をすることで、**実感できる、身近なまちづくりの計画**を目指します。

社会変化に柔軟に対応

福祉や教育、産業、観光など各分野には、それぞれの取り組みを推進するための個別の計画があります。

今後も地域の情勢や国の制度など、私たちを取り巻く環境は、変化することが予想されます。その時々の変化に対応するため、具体的な取り組みは、**各分野の個別計画を中心にまちづくり**を推進していきます。

新たな総合計画づくりは、今後も広報紙やホームページでお知らせしていきます。アンケートなどにより、皆さんからご意見をいただきながら「まちづくりの目標」を作っていきますので、ご協力よろしくお願いたします。

《詳細》企画課 ☎ 21181

